



国労せんだい

No. 2731
2017年3月10日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

春闘勝利に全力を

地方委員会でも確認

地方本部は2月18日、仙台市内において、第128回定期地方委員会を開催した。委員会で出席した委員の真摯な討論を経て、2017春闘を始めとした当面する闘争方針など全ての議題が承認され、取組みの意思統一が図られた。

要求獲得に向け行動を！

委員会は中島副委員長の挨拶で開会し、議長には千葉寛委員（仙石線駅連合分会）を選出した。千葉議長は就任にあたり、蕨駅転落死亡事故の対策が「お客様に対する声かけ」であることに触れ、声をかけたくても要員が不足して余裕のない職場の状態であること、また新聞に連載された地方交通線の存続に四苦八苦している実態を紹介し、「国鉄」に戻すべきでないかと述べ、分割民営化の矛盾点を指摘し議事に入った。

国労を引き継ぐために汗をかこう

続いて地本を代表し、大沼委員長は、以下の挨拶を行った。（要旨）
▼渡辺さんの労災死亡事故



あいさつする大沼委員長

春闘。デフレの原因は、民間給与総額の右肩下がりにある。企業の内部留保は

37兆円で景気の循環はここで断たれている。統一要求1万5千円を獲得に向け地方から本部交渉を後押しする。地方の柱は「一人一要求」から現場長との話し合いにこだわる。確認する大衆集会、大衆行動に組織の五割結集と合わせ、全組合員が参加する17春闘にしよう。

2・3	第5回執行委員会
2・4	地方委員長・書記長会議 地本中間監査
2・5	第70回地本アスベスト対策会議
2・9	第34回東日本本部拡大委員会
2・9	第3回春闘事務局会議・貨物本社団交9-10
2・11	安全キャラバン（福島県集会）
2・13	第6回地方執行委員会・第2回闘争委員会
2・16	安全キャラバン（宮城県集会）
2・20	第128回定期地方委員会
2・26	第57回安プロ・第48回各支部業務部長会議



東日本宮崎副委員長

東日本本部宮崎副委員長あいさつ

▼組織強化・拡大。昨年度以降、5ヶ月間拡大が無く、危機感を持ちつつ班や分会組織の強化を要請してきた。そうした中で現在まで3人の加入があり、旅客・貨物の一括和解以降では、222人に。今実践すべき具体的な行動として、全職場での対話活動を展開しその声を集約し共有すること、その全体化を図るため全

産党・社民党の選挙協力は重要であり、解散総選挙に向けた意思統一をしていく。その先に憲法・労働法制改悪阻止の道が開かれることを確信し、全組合員の理解と協力を一と述べ、忌憚のない委員の発言を要請した。来賓のあいさつを頂いた後、一般財団法人国労会館仙台地方部の労働講座として、仙台中央法律事務所 宇部雄介弁護士より、「共謀罪」について講演を受け全体で学習した。

誰かがでなく自ら行動を

地方本部は1月14・15日の2日間、ホテル松島大観荘において、組織強化・拡大対策会議を開催した。幾度となく、「喫緊の課題」と言われ続けてきた組織拡大の取組みであるが、この数年がまさに正念場である。本部・エリア・地方が一体となり、総団結で取り組むことを参加者全体で確認しあった。

地本組織対策会議から

全組合員が行動を

冒頭、問題提起を行った本部唐澤書記長は、「組織拡大全国統一行動の更なる展開」について、全ての組合員に浸透させると同時に、「誰かがやるだろうではない、自ら行動を起こそう」と強く訴えた。

続いて東日本本部彦田青年部長は、「一括和解以降10年連続となる新規採用者の加入があった」と報告し、「青年部要求では、過去

3回本社団交を開催し、要求の前進も図られている。今後は、国労運動の技術継承が課題」と青年部運動の取組み状況を報告した。

また東京地本大宮車両所分会鈴木書記長からは、会議に出席した昨年2月と6月に加入の松本さんと松崎さんの紹介がされ、連続3名の国労加入が実現した経緯について報告がされた。

そして4月に加入した内記さんも合わせ、「13年、14年に加入した先輩たちと

のつながり」や貨物会社の17年連続ベア・ゼロ回答や手当の低額回答の暴挙に対し、「責任組合と言われる労組が何の対抗姿勢を示さない事も背景の一つ」と報告があった。

分散会交流では、職種・系統毎それぞれの悩みや課題について交流し学び合い、また夜の懇親・交流会では、4人の青年の席を中心に、大いに盛り上がった。

翌日の分散会報告後には、参加者全体が「組織拡大の行動を起こす」決意に満ち溢れ、「地本・支部による全分会オルグの展開」や「会議だけに終わることなく実践あるのみ」、「自分が退職するまでに一人拡大する」との組織拡大に取り組む姿勢の本気度が伺われた。【弘】

JR30年を問う

本部安全キャラバンで仙台・郡山へ

国労本部は、「JR30年を問う『国労全国安全キャラバン』」を昨年12月から取組み、仙台地本内では2月11日に福島県集會、同16日には宮城県集會が開催された。

郡山市ビックアイでは本部唐沢書記長が、また仙台市仙都會館では坂口委員長がそれぞれ問題提起を行った。

本部は、「『国鉄分割・民営化』から30年、JRが発足以降、公共サービスの低下と事故・輸送障害など安全輸送に重大な影響を及ぼし、大都市間輸送の強化の一方で、ローカル線は廃止され地域の足が奪われている。また膨大な利益を上げる本州三社と赤字経営の北海道・四国など他社との経営格差の実態は、『国鉄分割・民営化』の政策的破綻である」とした。

また、この30年間で職場をはじめ、都市と地方がどう変化してきたのかを検証した上で、「安全輸送と地域公共交通を守り、交通体系の確立と交通政策基本法の具現化のため、国やJR等に働きかけ、世論喚起の運動を強めよう」と運動への理解を求めた。

本部は、安全キャラバンの集約点として、3月1日に「2017春闘勝利！JRの安全輸送と地域公共交通を守る3・1中央決起集會」開催する。

賃金改善申入れ

バス東北と東北ロジ・貨物支社へ

2月14日、地方本部と東北自動車支社は、JRバス東北に対し、「仙地申20号」を提出し、バス東北に対する賃金改善の申し入れを実施した。

今年も昨年同様に交渉を持てるように要請し、会社側は、「日程を調整して窓口連絡する」と回答した。

また国労東北協議会は2月20日、ジェイアール貨物・東北ロジステイクスに対し、4月1日以降の賃金改善を求める申し入れを実施した。

会社は早急に提示を！

遅れが目立つエルダー提示

次年度退職予定者のエルダー出向先について、仙台支社内では、多くの社員について未だ未提示である状態が続いている。

提示については、本来であれば11月までに完了していなければならないが、年を越して3月になっても少なくない数の組合員に提示がない状態であり、不安と不満の声が現場から届いている。そもそもエルダー出向は会社が作った「制度」であり、会社の言う、「受け皿が少くない」という理屈は通らない。制度そのものが崩壊している証左であり、現場からは、「受け皿がなければ別に作るかJR本体でそのまま雇用すれば解決する話。退職延長も含め真摯に議論してこなかったことが問題」と怒りの声が多く出されている。会社は早急に出向先の提示を！。【昌】

仲間の異動

- 2月1日付（一般異動）
- 大越 喜一さん
仙台総鉄→郡山総鉄
- 2月6日付（出向）
- 青木 昭さん（簡苦）
幹総車体→JRTM

退職のお知らせ

- 12月31日付
- 丹野 憲男さん
郡山設備
日本リーティック
 - 澁谷 清重さん
小牛田駅連合
TSS仙台お忘れ物センター
 - 加藤 良明さん
仙石線駅連合
TSS松島駅
 - 堀口 裕一さん
郡山設備
日本リーティック
 - 佐藤 文彦さん
仙総台車
JRTM
 - 佐々木 茂美さん
新庄連合
 - 佐々木 茂さん
仙台保線区
- 1月31日付
- 桜井 一彦さん
仙総車体
- 小林 正人さん
小牛田保線区
- 真木 誠さん
仙・宮運輸区
テクノ仙台東営業所
- 菊地 範行さん
仙・宮運輸区
テクノ新幹線営業所
- 佐藤 久男さん
郡山駅連合
TSS本宮駅
- 川口 弘明さん
仙総台車
JRTM
- 内田 五郎さん
貨物宮城
嘱託
- 首藤 長俊さん
小牛田駅連合
TSS矢本駅
- 田村 和則さん
仙台保線区
- 船水 清吾さん
仙・宮運輸区

地本に対する要請書等

今春闘時期において、各級機関から「ストライキを背景にした闘いの要請」文書が地方本部に寄せられているので掲載する。

なお要請があったことについては、上部機関に伝えている。

- 地方本部宛（要請日順）
- 宮城県支部
仙台駅連合分会
 - 仙台建築分会
 - 仙台電力区分会
 - 郡工支部貨物分会
 - 貨物福島分会
 - 仙石線駅連合分会
 - 貨物宮城分会
 - 郡山工場支部
 - 仙台宮城野運輸区分会
 - 中央本部及び東日本本部
へ直接激励・要請行動
 - 宮城県支部